

特集 ■ 障害児の成長・加齢に伴う問題点

近年、発達にリスクを抱えた小児を継続的に診察していることが多くなっており、発達のフォローやさまざまな障害に対するリハビリテーションの必要性は、年々高まっている。本特集では、障害児の成長・加齢に伴う問題点と題し、障害児を継続的に扱う現場で、成長・加齢に伴う問題点に関して、各分野の先生にその現状と取り組み、課題などについてご解説いただいた。

■重症心身障害児者（井出秀平氏，813 頁）

重症心身障害児者は、脊椎側彎症、嚥下障害、呼吸障害などが年齢とともに進行する。重症児医療は、嚥下障害や呼吸障害などへの対症療法を行い、経験を蓄積することで死亡率低下という成果を上げてきた。本稿では、著者の経験をもとに重症児者の加齢による機能低下の実例を示し、予防的見地からの文献的考察や今後の課題について述べている。

■発達障害児者（橋本大彦氏，821 頁）

発達障害は、発達早期に始まり、その後生涯にわたって継続するものである。そして、ライフステージのなかで、その具体的な行動を変化させるので、発達障害のある人にかかわる職種は、それぞれの段階での障害像や、生活のなかで要求される能力をイメージしながらかかわっていく必要がある。本稿では、ASD, ADHD, LD, IDD について、成長に伴う課題の変化をわかりやすく解説している。

■視覚の発達と障害（川端秀仁氏，827 頁）

視覚機能という視力だけを連想するが、いわゆる視力が成立するためにさまざまな視覚機能の発達が前提となる。視覚認知とは、見ている対象が何であるかを理解することである。視覚認知に問題があると、図形を見ても、線がどのように交わっているかという構造が掴めない。発達障害児の視覚機能不良のさまざまなサインを紹介し、具体的な検査法や支援法について解説している。

■難聴児の成長・加齢に伴う問題点（守本倫子氏，837 頁）

新生児聴覚スクリーニングが広く普及し、難聴児が早期に発見されるようになった。早期療育により言語・コミュニケーション能力が高くなることが知られており、就学時に普通学校での教育を受ける児童も増加している。就学・就労支援に際しては、周囲の障害に対する理解や配慮が望まれる。本稿では、難聴児の高等教育機関への進学および就労における問題点について解説している。

■発達障害児の就労支援（梅永雄二氏，843 頁）

発達障害者の問題の多くは、発達障害の子供の特性が学校や家庭で十分に理解されていないため、彼らに合った子育てや教育となっていなかったことから生じる。発達障害児の就労支援のポイントはジョブマッチングと希望サイドの理解である。本稿では、米国における発達障害児の学校教育、発達障害児の就労上の課題などを紹介し、発達障害児に必要な就労支援について解説している。

書 評

脳卒中上下肢痙縮 Expert ボツリヌス治療—私はこう治療している（水落和也）…907

ニュース

特別支援学校教員の免許、担当領域を保有 7 割—文部科学省調査…819 メダリストに報奨金—ソチパラリンピック…835 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」7 月号特集目次…848 介護施設、都市部不足を解消—2050 年向け「対流促進」（国土交通省）…853 通常国会閉幕、成長戦略の要は地方—医療・介護、効率化図る…854

お知らせ

第 4 回関東地区小児整形外科ベーシックコース講習会（日本小児整形外科学会若手セミナー）…826 第 15 回日本リハビリテーション心理研究会…841 第 10 回日本シーティング・シンポジウム…841 第 35 回医療体育研究会・第 18 回日本アダプテッド体育・スポーツ学会（第 16 回合同大会）…853 第 2 回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会…867